

し。故に爰に略す。

○藩士放廳傳話

慶長十七年十月十七日歩横目へのケ條書に、御廳之供に相越候。下々、田畠立毛ふみあらし、井にうひきちらし候事有り。従前は此の坂路の間なるがけ縁に町家數戸ありしかど、廢藩後追々家屋を毀ち、明治十九年に出羽町・廢匠町・欠原町の邸地、陸軍營所の練兵所と相成るに付き、此の坂走する故にや、微陽兩公遺事に、微妙公御領國改作被仰付時分、百姓共御憐愍被思召、何事にても田地方之儀望候は

べ存知可申上由、伊藤内膳・前田七郎兵衛へ御説有之。其

段中渡ける處、御家中諸士放廳之事、田畠荒廢仕難避之趣百姓共奉願由、則達御聽ける處、甚御立腹被爲在耕作方無爲に被仰付度御素意、畢竟侍之成立、御用に相立所思召、かやうの儀御許容に不、覃旨被仰出。とあり。又藤田安勝筆記に、微妙公小松御在城の頃は、初稻の時分竹田市三郎古近左近杯廢野に罷出、則稻を切候て罷歸、御前へ持出、どの邊へ廢野に罷出參候由申上、入御廻。御手に御取被成候て、寶入の躰を御覽被遊、善惡のやうす何角御意被爲成、御城に相詰罷在十村共へも御見せ、様子御聞被遊。とあり。諸士の廢野は、放廳は尤遊獵なりしかど、右

様田圃の容躰をも見るべきなりと云へり。

○大乘寺坂

元祿年中まで此の坂の下に大乘寺ありし故に、坂名に呼べり。従前は此の坂路の間なるがけ縁に町家數戸ありしかど、廢藩後追々家屋を毀ち、明治十九年に出羽町・廢匠町・欠原町の邸地、陸軍營所の練兵所と相成るに付き、此の坂路を廢せり。

○瑞雲寺舊地

此の寺は、利常卿の時まで木新保にありし處、藩の用地となり、小立野大乘寺坂の高にて替地賜はり、夫れより此の地に寺ありしかど、明治十九年五月陸軍營所の用地と成り、同年秋寶圓寺の境内に移轉す。

○大乘寺坂長谷院

曹洞宗也。當寺は元瑞雲寺の隠居地なり。延寶金澤園に、長谷院の地所及び此の地邊をば、瑞雲寺の境内となしたり。長谷院をば即ち瑞雲寺隠居と載せたり。長谷院由來書に、元和七年瑞雲寺三代蘭室和尚之取立に而、則瑞雲寺拜領地之内に罷有。と見む、元は瑞雲寺の支院なるが故に、

三箇屋版の六用集には瑞雲寺塔中と載せたり。然るに安永九年九月一寺住職相願、同年十月許可ありて、是より本寺瑞雲寺と同等の一寺とは成りたれど、甚だ小庵にて、坂中に今もあり。

○長谷觀音堂

長谷院の本尊也。此の觀音は、元瑞雲寺に安置せしを、蘭室和尚觀音堂を此の地に造立し、隱室の本尊とす。故に長谷院と號すといへり。金澤三十三所觀音順禮歌といふものにも左の如く載せたり。

一番慈光院。世を救ふ誓ひぞ深き慈光院迷ひのやみを照らす始しさ。

二番長谷院。一聲も佛の御名をとのふれば長谷院にひゞくなりけり。

明治元年神佛混濁御廢止に付き、石浦山王別當慈光院復飾し、佛体・佛器取除きの際、石浦山王の本地佛十一面長谷觀音は小立寶幢寺へ、同前立の觀音は舊蕃寺社奉行の指圖によりて長谷院へ移したり。

○欠原町

關屋政春古兵談に云ふ。横山山城守の小姓に渡部七左衛門と云ふ者あり。城州の下町近所川端の片原町に住居するに、或夜九時分はつしりと云ふ音す。七左衛門自覺し外の方を見れば、星の光見たり。異な事と思ひ、下帯に刀を差して戸口の方へ出でんとす。盜人内の躰を見ん爲め、簡